

しが国際協力親善大使レポート

いわがき あやこ
岩吹 綾子さん

隊次：2017年度1次隊

職種：作業療法士

派遣国：スーダン

自己紹介

生まれも育ちも大津市です。海外に興味を持つきっかけになった本も大津の本屋さんで買いました。大学では、アラビア語アラビア文化を専攻し、エジプトに1年語学留学をしました。その後も海外に行きたいという気持ちは大きくなるばかりで、今回、青年海外協力隊として派遣されることになり、とても嬉しく思っています。

活動国の気候や文化の紹介

スーダン共和国は、アフリカ大陸の北東に位置し、人口は約4000万人の国です。北部は砂漠気候、南部はステップ気候です。年間を通じて気温は高く、夏の日中は50度近くになります。国土は広く、アフリカの中で3番目に大きい国です。有名なナイル川は、青ナイル川と白ナイル川を源流に持ちます。両者がスーダンで合流し、ナイル川となりエジプトへ流れていきます。公用語はアラビア語ですが、数百もの民族語があるとされています。宗教は、イスラム教、キリスト教、伝統宗教などがあります。

活動や生活について

私は、作業療法士という職種で活動しています。作業療法士は、病気や障害を持つ人がより生活しやすく、より楽しい人生になるように、一緒にリハビリテーションをする仕事で、心と身体の専門職です。スーダンでは、首都のハルツームにある障害をもつ子どもが通う特別支援学校のような施設で活動しています。この配属先の他に、スペシャルオリンピックス・スーダン代表チームのサポートをしたり、児童養護施設でレクリエーションをしたり、車椅子バスケットボールの選手と関わったりしています。スーダンには作業療法士という職業はなく、配属先では大学で心理学を学んだスタッフと一緒に働いています。子どもたちに作業療法を行うこともありますが、一番の目標はスタッフに作業療法士の視点を伝えられるといいなと思っています。そのため、一緒に子どもの家へ訪問作業療法に行ったり、スタッフに向けてワークショップを行ったりしています。十分ではないものの、

首都には他にも障害をもつ子どものための施設が多数ありますが、首都郊外や地方へ行く
と施設も専門家も乏しいのが現状です。地方へ旅行に行つて現地の人と話していると、「あ
そこの家のあの子どもを診てあげて」と頼まれることも何度かありました。医師や看護師
といった緊急時の医療体制も不足している状況で、障害をもつ人のサポート体制を確立す
ることは簡単ではないと思いますが、障害をもつ人にとつても、障害をもたない人にとつ
ても暮らしやすい環境になればいいなと心から思っています。

スーダンで生活をしていて面白いと感じることは、アラブの文化とアフリカの文化が
モザイク状に混在していることです。例えば、洋服を取つてみても、アラブで馴染みのあ
る男性用の白いワンピース（ジャラビーヤ）や女性用の黒いワンピース（イバヤ）、スーダ
ン独自の衣類であるトーブ、アフリカで馴染みのあるカラフルなアフリカ布（コンゴーリ）
を使った衣類など、様々な文化を感じることができます。アラビア語は、東はイラクから
西はモロッコまで広範な地域で話されている言葉で多くの方言がありますが、スーダンの
人々が話すアラビア語は、穏やかで暖かで優しい印象を受けます。スーダンの国民性がよ
く現れていて、とても心地よい響きです。

活動をしていると、いいことばかりではなく辛いことや悔しいこともあります。穏や
かで優しいスーダンの人々に助けられながら日々奮闘しています。任期の 3/4 が過ぎ、残
り半年となりました。日本式を押し付けることなく、スーダンの流れに身を任せながら 1
日1日を大切に活動していきたいと思つています。



配属先での誕生日会



配属先での作業療法場面



訪問作業療法中の生徒の自宅で



結婚式でトープを着た友人と



犠牲祭の際に招待されたお宅で